

障害ある子どもも 星空で笑顔に

豊橋で移動プラネタリウム



投影された星空を楽しむ子どもと保護者＝豊橋市障害者福祉会館さくらピアで

障害のある子どもたちに移動式プラネタリウムを楽しんでもらうイベントが三十日、豊橋市障害者福祉会館さくらピアであった。親子ら約二十人が参加し、星空の映像を楽しんだ。

子どもが騒いで周囲に迷惑をかけることを気にしてプラネタリウムから足を遠ざける保護者が多いことから、三年前からさくらピアが企画。これまでは山梨県、兵庫県など遠方の団体の協力で開いてきた。

今回協力した豊橋市視聴覚教育センターは、今年になって移動式プラネタリウムを導入した。直径五メートル

高さ三メートルほどのドームを屋内に設置し、放映機で星空を映し出す。

車いすのまま入れるドーム内に惑星や天の川が投影され、子どもたちは立ち上がったたり、声を上げたりと楽しそうな様子だった。

説明を担当した視聴覚教育センターの杉浦裕紀学芸員(左)は「普段、障害のある子どもたちと関わる機会がないので勉強になった。これを機に星空に興味を持ってほしい」。十八歳の娘と参加した豊橋市杉山町の井土景子さん(右)は「娘が楽しそつに笑っていてよかったです」と笑顔だった。(斎藤徹)